

【平成 27 年 8 月 18 日（火）】

秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞ驚かれぬる、といった日和になってきました。早足で歩くと少し汗ばむ。オランウータンの前は、日よけがないのでこのところあまり長い時間立っていられなかった。今日は大丈夫だから、と思っていくと、寝ていたフトシ君がガバット起き上がってこちらに来た。しばらくお話をする、といってもこちらがブツブツ言っているだけ。フトシは黙ってこちらを見るでもなくたたずんで、座っているだけ、約 10 分。ふと見るとメスのナナがすぐ上にいる。このパターンはオシッコをかけられることがあるのを察知したのか、フトシ君はささっと避難してしまった。いざとなると動きは速いのだ。どうもナナさんは、我々の邪魔をしているようだ。

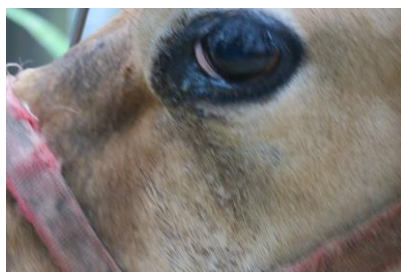
さて昨日のクイズだが、答えは「白目」。動物園で観察するとわかりますが、人間を除いて白目のある哺乳類はいないといってよい。どうしてだろうか。哺乳類の目には人という白目の部分には必ず色がついている。考えるに白目はまず目立つ、目立っても安全性を確保した人間だけが白目を持つことができるのだろう。さらに白目は表情を作る、言い換えれば感情表現が豊かになり、コミュニケーション能力が飛躍的に高まるのである。サングラスをかけると表情がわかりにくくなることを考えてみればよい。ついでに言えば、この白目、実は強膜という目を保護する膜であり、ほかの哺乳類にはこれがないわけではなく、そのさらに表面に色がついているのである。ちなみにアニメの動物には白目があるが、これを塗りつぶしてみるとどうなるかやってみるとわかる。結構異様になりますよ。さてウシに白目が出てくるのは、家畜化されているせいであろう。イヌでもたまに出ることがある。

【平成 27 年 8 月 17 日（月）】

休園日、久しぶりの雨、いいお湿りである。気温も低い。ライオン施設の建設が始まってから休園日は工事がフル稼働。今日はお盆明けということもあって、大型ユンボが 2 台入って見る見る片付いていった。工事現場というのは見ていると何故か面白い。着実に進行するからだろうか。

オオカンガルーのところでは、お出迎えの歓迎。みんなで一斉にこちらをみてくれた。キリンもゾウも、ミーアキャット、カワウソもお出迎え。だが全く関心を向けないのもたくさんいる。この違いは何なのだろうか、極端すぎるようにも思える。

動物の目玉の写真を撮ってみた。なんだかわかりますか？この目、ほかの動物ではあまり見られない特徴があります。この動物はウシです。さてもう一度クイズ、その特徴はなんだろう？もちろん、問題は目。



【平成 27 年 8 月 16 日（日）】

昨日までの暑さもやっとおさまってきたようだ。天気予報が雨なので、お客さんはさほど多くない。テナガザルのメス・ハートは相変わらず元気よく声をだし、枝渡りをしている。でも今日はオスのブレイブは同調せず沈黙。すぐそばの「サル比較舎」では最近生まれたクロザルとアビシニアコロブスの子どもが元気に育っている。しきりに母親のふところから外に出たがってむずむずと動いている。母親のほうは胸もとに抑えておきたくて必死だが、たまにするりと顔を外に出してくる。無事育ってくれそうである。

